

우리는 어디까지 왔나?

# 在日本中国朝鮮族35年の歴史

記録、現状、課題

11/28

土曜日

13:30—18:00

開会の挨拶 谷川雄一郎 神奈川大学・朝鮮族研究学会副会長  
趣旨説明・ファシリテーター 呉茂松 慶應義塾大学

報告 各15分

- 01 在日本朝鮮族社会年表作成における経過報告  
金哲洙 日本農業新聞社ソリューション事業部  
首席アドバイザー
- 02 組織・コミュニティ・アンケート調査経年比較  
南かのん 早稲田大学理工学術院 環境総合研究センター  
研究助手
- 03 朝鮮族メディア  
裴尚峰 朝鮮族ドンネ (DONGNE) オンライン・代表
- 04 在日本朝鮮族コミュニティのスポーツ参加の実態と認識  
—35年の歩みとジェンダーの視点から  
洪龍日 日本学術振興会特別研究員PD・上智大学
- 05 在日本朝鮮族文学  
嚴貞子 在日中国朝鮮族作家協会会長
- 06 世界朝鮮族の経済文化交流活動  
朴春花 全日本中国朝鮮族連合会首席副会長

討論

朴勲 東北大学  
堀田幸裕 一般財団法人霞山会主席研究員  
李鋼哲 一般社団法人東北亜未来構想研究所所長  
元北陸大学教授  
ソッティーレ・マルコ 慶應義塾大学  
宮島美花 香川大学

パネルセッション 許永洙 馬洪哲 李東哲 権香淑  
閉会の挨拶 金光林 新潟産業大学・全日本中国朝鮮族  
連合会会長

趣旨

在日本中国朝鮮族の歴史は、留学と研修の機会に恵まれた少数精鋭が日本の地を踏んだ1970年代末から始まった。小規模の親睦で繋いできた80年代と90年代を経て、2000年代以降、来日形態の多様化とともに規模も拡大し、日本在住の中国朝鮮族出身者の数は、現在7～8万人と推定されている。個々人の努力はもとより、個々人が織りなす大小のネットワークに支えられ、その仕事と活動は日本で軌やかに裾野を広げている。いま、敢えて歴史を遡れば、朝鮮半島を後に豆満江・鴨緑江を渡った人々は、素足と素手で荒地を開墾し、中国大陸で自分たちの生活基盤を作った。そして激動の時代を生き抜き、少数民族として定着している。一世紀が経ち、その脈を引き継ぐ人々が海を渡り、日本でも確実に灯火を繋いでいる。いま、勇気をもって、一度立ち止まる。自らの足跡を静かに顧み、現状を凝視しながら、次の一世紀を切り拓くための課題に向き合う。

対象 一般・塾生・教職員  
主催 朝鮮族研究学会  
協力 全日本中国朝鮮族連合会  
後援 慶應義塾大学教養研究センター

## 朝鮮族研究学会2026年度 シンポジウム



申込・お問合せ

会場 慶應義塾大学日吉キャンパス  
来往舎 大会議室 + Zoom

事前申込制 11月25日（水）締切  
※定員70名に達し次第、受付を終了します。